

## 学習や行動制御につまずきがある子どもの支援 —脳科学と発達障害研究の知見をいかした効果的な支援法—

企 画： 橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
小島 道生 (岐阜大学教育学部)  
話題提供： 橋本 創一 (東京学芸大学教育実践研究支援センター)  
宇野 宏幸# (兵庫教育大学大学院特別支援教育コーディネーターコース)  
堂山 亜希 (清瀬市教育相談センター  
／東京学芸大学連合学校教育学研究科)  
ファシリテーター： 小島 道生 (岐阜大学教育学部)

### 【企画主旨】

小中学校における学習や行動制御につまずきがある子どもの支援について、脳科学の知見（主に実行機能研究）と発達障害研究の知見（主にLD・AD/HD・ASD への学習・行動支援）をいかした効果的な支援法からアプローチして検討する。

### 【話題提供】

#### 『学習や行動制御につまずきがある子どもの理解と支援』 (橋本創一)

学習・行動制御のつまずきの実態について、ASIST 学校適応スキルプロフィール（橋本他，2012）による通常学級・特別支援学級児童への調査から、個人活動と集団参加を阻害する要因について紹介する。特に、自閉症スペクトラムを中心として、社会性（言語コミュニケーションを含む）の問題だけが取りざたされることが多いなかで、学習障害の所見（読み、書き、計算、推論、視知覚の困難さ等）に加えて、展望記憶、プランニング、遂行、行動抑制、柔軟な思考などの認知機能や学習パターンの特性等に関する討論も必要であると考え。そして、軽度知的障害児や発達障害児の「状況理解の弱さ」「感情コントロールの低さ」「多動・衝動性の強さ」「こだわり・過敏さの強さ」「表現力の未熟さ」といった5つの要因から、そのアセスメントと支援方法を検討する。

#### 『実行機能から考える通常学級の授業づくり』 (宇野宏幸)

最近、発達障害のある子どもが「実行機能」に課題を持っているという認識が広まってきている。AD/HDについて考えてみると、目標設定、プランニングの苦手さに加えて、自分がしたことへのモニタリングが難しいため、結果的に合目的行動やルール学習が損なわれがちであり、この面への支援や配慮が必要である。また、彼らが学校生活の大半の時間を通常学級で過ごしていることを考えると、クラスでの授業づくりや学級経営に「実行機能支援」という視点を取り入れていく

ことが重要と考える。そこで、クラスにおいて実行機能を簡単にアセスメントできるツールとして「NU 式行動チェックリスト」を開発してきた。今回は、本ツールを活用しての授業を工夫した事例を紹介しながら、実行機能を考慮した授業実践の重要性について議論してみたい。

#### 『ワーキングメモリに困難さをもつ特別支援学級児童の実態調査』 (堂山亜希)

ワーキングメモリは実行機能を構成する機能の1つとして考えられている。最近の様々な研究から、ワーキングメモリの問題は知的・発達障害の主な障害の1つであることが明らかにされており、学習とワーキングメモリとの関連について、特に読みや算数とワーキングメモリとの関連が数多く研究されているが、ワーキングメモリに弱さをもつ児童が、学校での様々な学習活動上どのような場面で困難を生じやすいかについても検討する必要がある。本研究では、ワーキングメモリに弱さがある児童が抱えやすい学習上の困難について、特別支援学級に在籍する児童を対象に調査を行った。調査の結果から、ワーキングメモリに弱さがある児童に対して、どのような場面で教師が特に配慮をすべきかを明らかにできるであろう。

### 【討 論】

脳科学研究や心理学的な研究成果により、学習や行動制御につまずきのある子どもの背景要因について、様々な知見が示されてきている。本シンポジウムでは、主に実行機能に焦点をあてて、話題提供者の方々からご自身の研究成果を紹介して頂く予定であるが、指定討論においては、それら研究知見をどのように教育・支援の現場で効果的にいかすことができるのかという観点から議論を深めていきたいと考えている。特に、アセスメントと具体的な支援の在り方について、環境要因も含めて整理し、検討していく予定である。

(小島道生)